

2021 年度 第 3 四半期決算 主要な質問に対する回答

Q：2021 年度第 3 四半期累計期間の実績について総括していただけますか？

A：当第 3 四半期累計期間の売上収益は、一部地域で新型コロナウイルス変異株による行動制約などの影響が残るものの、中国以外の地域で堅調な需要を取り込み、為替円安影響も加わって、前年同期比 29% 増の 7,204 億円となりました。市場環境は、新車販売だけでなく部品サービスを中心としたバリューチェーン事業、マイニング事業において堅調に推移しております。調整後営業利益は、鋼材価格を中心としたコスト増加の影響があるものの、売上収益の増加や第 2 四半期に計上した米州向けの販売価格決定による調整額、為替円安影響により、前年同期比 235% 増の 613 億円、調整後営業利益率 8.5% と大幅な増益となりました。

Q：2021 年度見通しについて総括していただけますか？

A：中国以外の主要地域において市場環境が当初の見通し以上に回復していることから、2021 年度の油圧ショベル需要見通しについて、世界全体でこれまでの 22 万台(前年度比△7%)から約 23 万 1 千台(前年度比△3%)へ上方修正を行います。2021 年度通期の業績予想についても、第 3 四半期累計期間までの実績に加え、為替円安影響を考慮し、売上収益を 9,500 億円(前年度比 17% 増)、調整後営業利益を 840 億円(前年度比 157% 増)へ上方修正いたします。第 4 四半期の前提為替レートにつきましては、米ドル 110 円、ユーロ 130 円、人民元 17.5 円、豪ドル 80 円を想定しています。なお、第 2 四半期決算で連結業績予想に織り込んだ鋼材価格を中心としたコスト増については、足許では概ね第 2 四半期決算時の見通し通りに推移しております。

Q：競合他社では一部地域で余剰となっている生産能力を活用するため、生産の拠点間融通を推進しているようですが、日立建機ではどのような取組を行っているのでしょうか？

A：現在、当社は中国・インドネシア・インド・欧州・ロシア・北米・ブラジルに主な海外生産拠点*を保有しております。当社では、グローバルの需要変動や生産負荷の平準化などを考慮して、「地産地消」を基本にしつつ、インドやインドネシア、中国の生産拠点から、東南アジア・ロシア CIS・中東・アフリカ地域などに、中大型油圧ショベル、ホイールショベル、ホイールローダの一部機種を出荷しています。なお、2021 年度の拠点間融通台数は 700 台規模と見込んでおります。

*北米とブラジルはディア社との合弁工場であり、2022 年 2 月末でディア社に譲渡予定

Q：筆頭株主の異動を発表されましたが、新たな資本関係のもとで、日立ブランドはいつまで継続使用が可能なのでしょうか？また、伊藤忠商事と日本産業パートナーズとの連携は、日立建機にどのようなシナジー効果をもたらすと考えているのでしょうか？

A：日立ブランドの具体的な使用許諾の期間、更新の条件などについては、今後数カ月をかけてクロージングまでに協議し、合意する予定ですが、当社はこれからも日立ブランドを掲げ、日立製作所との連携を続けてまいります。今現在、日立ブランドを活かした米州事業の垂直立ち上げが、当社にとって最優先で取り組むべき課題と考えており、米州事業の成長を実現させることを通じて、日立ブランドの価値向上に貢献したいと考えています。

また、伊藤忠商事との連携については、同社の持つグローバルネットワーク、豊富な経験およびリソースを活用して、ディア社との合弁解消後の北米事業の早期立ち上げとその後の強化をサポートしていただきたいと考えています。具体的には、ファイナンススキームの構築や、日米間・米国内での物流ロジスティクスにおける連携などを検討しています。

日本産業パートナーズとの連携については、当社株式を中長期的に保有いただくことで、当社の経営基盤の強化と企業価値の向上に向けたサポートを期待しております。